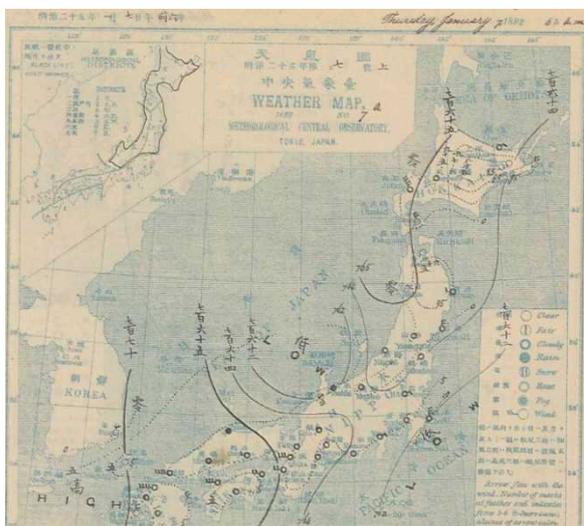


「創設から130年を迎えて」

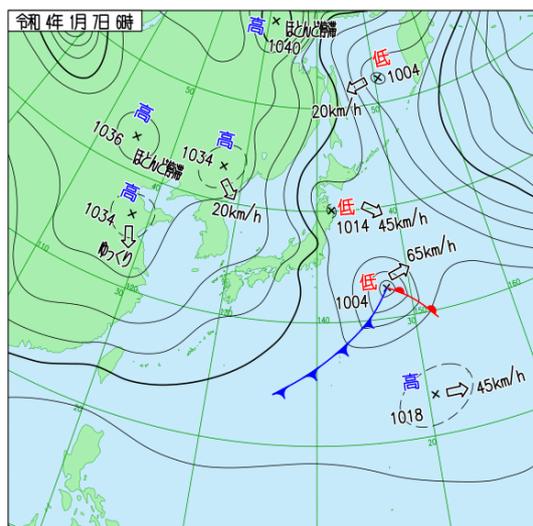
帯広測候所は明治25年1月7日、晩成社の草小屋を借りて、職員1名によって一日三回、気温・風向風力・日照時間・降水量の観測を開始しています。開拓を進める方たちの並々ならぬ努力、そしてバツヤや洪水被害への落胆を間近で感じ、当時は彼らとともに日々の天気に一喜一憂しながら自然現象に向き合っていたものと想像しているところです。時は進み戦後の昭和20年代後半には予報官が配置されるなど、現在のように十勝地方の警報や予報を発表する形態が確立しました。そして今も諸先輩たちが続けてきた観測や予報業務を継承し、その品質管理等に努めています。この地の発展と共に業務を続けてきたことは、我々にとって誇りと喜びであり、同時にその責任の重さをあらためて思う次第です。

情報通信技術の開発が進み、観測データを含めた各種気象情報はだれもがいつでも入手できる時代となりました。これらの情報がより一層活用され、さらなる十勝の発展に貢献していけるよう、住民の皆さまの声を聞きながら職員一丸となって取り組んでいきます。今後ともよろしくお願ひします。

令和4年1月7日 所長 青木康友



明治25年1月7日6時の天気図
最低気温 -27.2℃



令和4年1月7日6時の天気図
最低気温 -12.8℃

帯広測候所の沿革(以下リンク先)

<https://www.jma-net.go.jp/obihiro/about/enkaku.html>